

## 製品・サービス動向-国内

## ■RSUPPORT：AI 議事録自動作成ツール「Alreposito」をリリース、主要なオンライン会議プラットフォームに対応、オフライン会議も

(PRTIMES:4月8日)

RSUPPORT 株式会社 (<https://www.rsupport.com/ja-jp/>) (東京都港区) は、AI を活用した高精度な議事録自動作成ツール「Alreposito(エーアイレポト)」を正式にリリースした。



## 議事録自動作成ツール「Alreposito」ロゴ (RSUPPORT)

Alreposito は、Web 会議 (RemoteMeeting、Zoom、Microsoft Teams、Google Meet など) やオフラインの対面会議など、さまざまなシーンの会議内容を自動で文字起こし・要約してクラウド上に議事録を生成できるサービス。ユーザー数にかかわらず追加料金が発生しないシンプルな料金体系により、企業全体でコストを気にせず利用できる。

Alreposito で会議業務が変わる3つのポイントは以下の通り。

- (1) 高精度音声認識 (最大20人)：RSUPPORT 独自の AI ファインチューニングと音声テキスト変換 (STT) 技術を結集し、平均10人程度となる他社サービスと異なり、最大20人の声を同時に、かつ正確に識別する。
- (2) 要約・共有機能で作業時間を98%削減：発言内容を自動文字起こしし、要点を抽出・要約する AI

要約生成機能を搭載。キーワード抽出や文脈分析により、重要事項だけを精巧に整理する。生成された議事録は、チームメンバーとの共有機能や共同編集機能によって、すぐにフィードバック・二次利用が可能という。

(3) 「みんなで使える」シンプル料金体系：従来の議事録作成は担当者の手作業や外注に依存し、費用や時間がかさんでいた。Alreposito なら、ユーザー数の増加による追加料金不要。組織全体でコスト負担を気にせず、利用が広がるという。

Alreposito は、主要なオンライン会議プラットフォームと連携している。別途プログラムのインストールや複雑な設定は不要で、会議 URL を張り付けるだけでブラウザ上から議事録を自動生成できる。一方、オフライン会議では、録音ファイルや動画をアップロードし、プレビュー機能を使って必要な部分だけ素早く確認できるため、不要な再作業を防ぎ、業務効率を最大化するという。

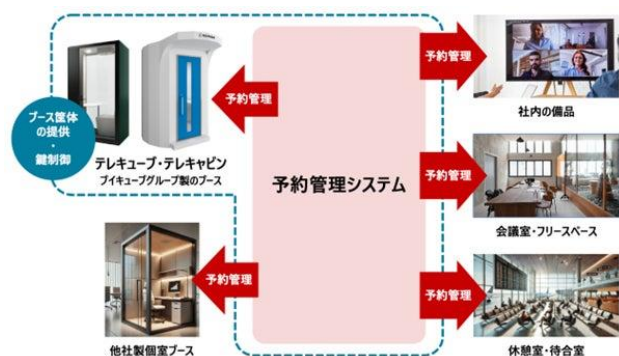
なお、今回の発表にともない、「Japan DX Week 春2025」に出展し、最新製品の Alreposito をはじめとする RemoteViewing や RemoteCall などのソリューションを紹介するという。

## ■ブイキューブ、テレキューブ：スペース・備品予約管理サービス「テレキューブ・パーソナル・サービス」を提供開始

(4月2日)

株式会社ブイキューブ (<https://jp.vcube.com/>) (東京都港区) およびテレキューブ株式会社 (<https://telecube.jp/>) (東京都千代田区) は、オフィススペースおよび備品を一括で管理できるクラウド

サービス「テレキューブ・パーソナル・サービス (TPS)」の提供を開始した。



### 「テレキューブ・パーソナル・サービス」のイメージ (ブイキューブ)

テレキューブ・パーソナル・サービスとは、企業内のスペースや備品の予約管理と、それに付随する鍵の遠隔管理を可能にするクラウド型サービス。昨今オフィスで普及が進むワークブースやフオンブースに加え、従来から設置されていた会議室やフリースペース、モニターなどの備品まで幅広く対応し、簡単かつ低コストでの予約管理を実現する。

近年、テレワークやリモート会議の普及に伴い、従来の会議室に加え、フオンブースやテレワークブースなど新たなワークスペースが増えている。加えて、柔軟な出社スタイルが広がる中でフリーアドレス制を採用する企業も増えている。この結果、モニターなどの備品貸し出しやオンラインコミュニケーション用機器の管理など、多様な働き方に対応したスペースと備品の管理が企業に求められるようになったという。

こうした変化にともない、予約管理に関する課題も顕在化している。既存システムをそのまま利用する企業では操作性の悪さが問題となり、一方で、部門単位で新たな管理ツールを導入する際にはコストや運用負担が障壁となるケースも少なくないという。その結果、多くの企業では紙ベースでの管理運用に頼らざるを得ず、生産的なスペース活用や備品利用を阻害している現状があるとしている。

そこでテレキューブでは、自社の予約管理システムを拡張し、テレキューブ・パーソナル・サービスを開発した。本サービスは全国で導入実績のあるテレ

キューブや「テレキャビン」の予約システムを基盤としており、高い操作性と充実した機能を兼ね備えている。管理業務の負担軽減と予約プロセスの効率化を通じて、オフィススペースおよび備品の利用促進が期待されている。

テレキューブ・パーソナル・サービスは、初回登録費用の100,000円に加え、月額費用の10,000円+120円/1対象施設または1対象物(100施設登録まで)。電気錠付き筐体を利用する場合は別途費用がかかる。

## 導入利用動向-国内

### ■ Neatframe：大分県教育庁、Neatのデバイスを活用した遠隔教育配信センターの運用を開始

(PRTIMES:4月9日)

Neatframe 株式会社 (<https://neat-japan.com/>) (東京都千代田区) は、大分県教育庁 (<https://www.pref.oita.jp/>) が4月14日正式に開所する遠隔教育配信センターにおいて Neat のビデオ会議システムが多数採用されたと発表。



#### 対面しているような臨場感の遠隔授業の様子 (Neatframe)

少子化が進行する地域と都市部間の教育格差を解消し、全ての生徒に質の高い教育を提供するため。

大分県では、高い専門教育を実現するため、県内各地の高校をつないだ「配信センター方式」の遠隔教育をスタートする。遠隔教育配信センターには専任教員が常駐し、各校と連携した遠隔授業や学習支援を実施する。Neatはそのプラットフォームを支える重要な通

信インフラとして、大分県教育委員会のDX推進に貢献している。Neatの高品質な映像・音声技術が、生徒と教師の距離を感じさせない臨場感を実現し、まるで同じ教室で授業を受けているかのような学習体験を可能にしている。

Neatデバイスの特長と効果としては、以下の通り。

(1) 高性能マイク：教室の隅まで届く10mの收音範囲をもち、人の話し声以外のノイズをカットできる高性能マイクを搭載（「Neat Bar Pro」「Neat Board Pro」）している。(2) 高精細AI搭載カメラ：教師の動きや発話に合わせてカメラが自動的にフォーカスし、自然な授業進行をサポートしている。接続先の教室で生徒がいる範囲を特定し自動でカメラのフレームに収め、高精細で大きく映し出す。(3) 簡単操作：人感センサーで自動的に電源が入り、接続先を選択するだけで授業を開始できるため、ICTに不慣れな教職員でも普段の対面授業のように容易に扱える。

大分県教育庁によると、Neatの導入で、関係者が持っていた従来の遠隔授業のイメージが大きく変わったという。操作が直感的で、教員に特別な研修が不要な点も魅力だが、何より生徒が、先生が目の前にいると感じられるような臨場感があり、対面と遜色のない学習環境を実現できていることを示しているとしている。

なお、4月23日～25日までの3日間、遠隔授業にフォーカスしたイベントを開催する。

## セミナー・展示会情報

### <国内>

#### ■Zoom CX Summit Tokyo 2025

AI時代のCX進化: Zoomで変わる顧客体験の最前線

日時：4月17日(木) 13:15～17:45(受付: 12:30より)

会場：室町三井ホール&カンファレンス

主催：ZVC Japan 株式会社

詳細・申込：<https://click.zoom.com/japan-cx-summit-2025>

#### ■Neat 遠隔授業 Days

多様な社会のまなびを支える遠隔授業の最前線

日時：4月23日(水)～25日(木) 9:00～17:00

会場：有明セントラルタワー&カンファレンス

対面/オンライン

主催：Neatframe 株式会社

詳細・申込：[https://neat-japan.com/p/remote\\_edu\\_days](https://neat-japan.com/p/remote_edu_days)

\*毎日12:00～14:00は特別講演あり。

#### ■ブイキューブセミナー情報(4月)

「インサイドセールス&電話営業の新常識! AIの徹底活用でアポ数を2倍にする最新戦略!!」「工期・コスト半減! 今すぐ始める柔軟オフィス設計～年度内に間に合う実践アプローチ～」など

会場：オンライン/オンデマンド

主催：株式会社ブイキューブ

詳細・申込：<https://jp.vcube.com/event/all>

#### ■Webex Meetings 関連ウェビナー(4月)

会場：オンデマンド

主催：シスコシステムズ合同会社

詳細・申込：[https://www.cisco.com/c/m/ja\\_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html](https://www.cisco.com/c/m/ja_jp/training-events/events-webinars/collaboration-webinars.html)

国内その他：<https://cna.jp/cna/event-j.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

CNAR.jpサイトの情報もご参照ください。

## 業界の動き

オンライン会議・UC業界は日々さまざまな動きがあります。この定期レポートの発行は月2回(プレスリリースと取材に基づく記事のみ)ですが、CNAレポート・ジャパンでは、業界の動きに関連した国内外の情報を日々皆さんと共有しています。皆様の情報収集のひとつとしてご活用いただければ有難いです。

■フェイスブック(遠隔会議&UCトレンドワッチ)

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

■X(旧: Twitter)(遠隔会議&UCトレンドワッチ)

<https://twitter.com/cnarjapan>

**■メーリングリスト (dtc-forum)**

<https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

**定期レポートバックナンバー**

定期レポートのバックナンバー（1999年～最新号）は下記 URL で閲覧できます。

<https://cnar.jp/cna/cnareportarchive.htm>

**お知らせ（重要）****—配信システムの変更について：**

長年配信システムのひとつとして使用してきました、まぐまぐですが、すでにご案内の通り、まぐまぐでの配信を 2024 年 10 月末号にて終了いたしました。今後は、CNA レポート・ジャパンのサイト、X（旧ツイッター）、facebook ページ、dtc-forum メーリングリストでの配信とさせていただきます。

この定期レポートをまぐまぐで受信されている読者の方は大変お手数ですがいずれかの受信方法へご変更お願い致します。

>CNA レポート・ジャパン サイト

<https://cnar.jp>

>X(旧ツイッター)

<https://x.com/cnarjapan>

>facebook ページ

<https://www.facebook.com/unifiedcom>

>メーリングリスト (dtc-forum)

<https://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

**■CNAレポート・ジャパン 2025年4月15日号**

ホームページ: <https://cnar.jp>

お問い合わせ: [inquiry@cnar.jp](mailto:inquiry@cnar.jp)